

武勳は高し 護國散華の 上海戦線大捷の壁石

全郡民は英靈に誓ふ

中央軍の総統を誇る頑敵を正面にして上海戦線で果敢なる肉彈戦を演じ遂にこれを潰走せしめた過般の激戦における兩角部隊護國散華の勇士は此程原隊から發表されたが本郡關係は左の如く上海は上海捷打の壁石となつたこれら等勇士の英靈に對し心からなる感謝と弔意を送る……南京陥落も最早自衛に迫つた群衆は御身等の戰功を永へに心に描いてひたすら続後之の謡りの一しほ箇からんことを誓ふものである、英靈よ安んじて瞑せよ兵で常松さん的一人息子亡してやり出征前迄漁業で母かねさんは數年歿死を慰んでゐた、留守宅には妻いちは(三)さんとの間に七歳を川村萬崎三出身兩角部隊上等兵で五年生兩角部隊上等兵で十年生石川縣能美郡西尾村小尾屋鍛山阿久坂三號ノ七に移住坑夫となり働いてゐた、留守宅には妻いちは(三)さんとの間に五人の子供がある(三)さんの外兄二人が農事に關んで居り兄弟は五人ある

長瀬憲彦君

町岩間出身伍長で家庭には父親源吉氏(六)母親みわ(五)さん妻みどりさん(四)と同年生れた男兒が戰闘で敵陣に突入した際に胸が胸部に貫通クリークに輕濟名譽の戰死を遂げたと同郷出身の戰友によつて傳へられてゐたもので青訓の指導員をしてゐた

出羽公一君

四倉町新須賀出身で林三郎氏の長男昭和八年警視廳巡査を拜命し妻まつ子さ(三)を迎へたばかりで

佐藤松吉君

四倉町出身西角部隊一等

多賀軍を擊破し 優勝旗奪取成る

石城教員チームが

柳内正雄君

上小

川村下小出出身一等兵で

同村上平渡邊鶴之助さん

の四男、柳内善之助の方へ婚登するが母のみ(三)さん(九)を娶つてゐた

校の幹部をしてゐた

佐藤松吉君

四倉

支那氣質

掠奪の強い

軍事的

軍事的